

世界にたったひとつ

バリアフリーかふかの自助具

今回、市長ぐるっとークで訪問した「バリアフリーかふか」(代表：佐治弘嗣さん)では、一人ひとりの障がいの程度や生活様式に合った道具を作成されています。材料費程度の負担で、あなたにピッタリの自助具ができるそうです。

☆自助具ってどんなもの？

体が不自由な人が、日常生活においてひとりできないことや人に頼まなければならないことを少しでも活動しやすく、自分でできるように工夫された道具のことです。

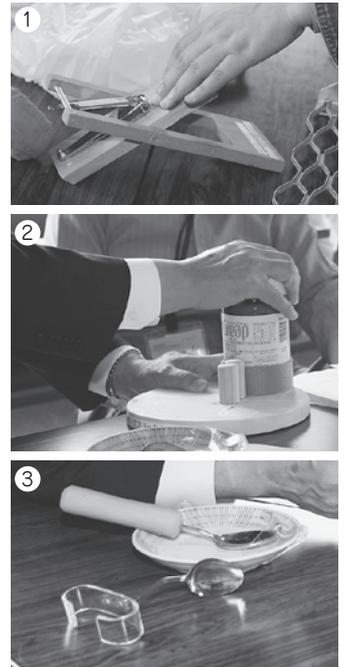
☆どんな道具があるの？

スプーン、フォーク、お箸、爪切り、シャンプーなど、食事や身だしなみに関するものから普段の生活のあらゆる場面で使う道具があります。

自助具は、障がい者や高齢者の方の「こんなものがあつたらいいな」というご意見をきっかけに生まれます。

自助具について詳しく知りたい方、自助具のご注文は下記までご連絡ください。

問い合わせ 生活支援センターあかつき ☎65-4641 FAX65-4642



①片手で使える爪切り／②びんのふたが簡単に開閉できる道具
③握力が弱い人にも握りやすいスプーン



勇壮に7基が巡行 水口曳山祭

①豪快な綱さばきで砂煙を巻き上げながら境内を走り抜ける曳山 ②趣向を凝らした「ダシ」も見物の楽しみのひとつ ③松並木を抜け水口神社へ向かう曳山
④提灯をともした曳山の姿は幻想的 ⑤曳山の上で囃子の演奏に加わる子どもたち ⑥心をひとつに囃子を奏でる町衆

水口神社の例大祭「水口曳山祭」が、4月19日、20日に行われ、街中に鉦や笛、太鼓の音が響き渡りました。

江戸時代中期に町民が始めたとされるこの祭は、曳山が出る祭としては県内最多の16基が現存し、県の無形民俗文化財に指定されています。

20日の例大祭には、7基の曳山が巡行。各町を出発した曳山は、「ダシ」と呼ばれる飾り物を上部に載せ、昼すぎに水口神社に勢ぞろいしました。

今年は、開催日が休日と重なったこともあって、例年より多くの人が出でにぎわいました。